

# 広報みしま

## 11月15日号

- 2 特集 共に生きる三島へ
- 6 タニタ監修メニュー提供開始
- 7 健康づくり
- 8 スポーツ
- 9 子どもスポーツサッカー教室
- 10 暮らしの情報
- 11 マイナンバー「個人番号カード」の交付
- 12 情報ワイド版 / 図書館
- 13 生涯学習
- 14 文化のひろば
- 15 第23回三島函南農業祭 / 第14回全日本ホルスタイン共進会
- 16 出場 / 第40回みしま生活展  
秋冬の楽寿園にお出かけください / がんばる！元気な！市民活動団体「三島市ふるさとガイドの会」

# 自立と共生 共に生きる 三島へ



## 自分らしく、歩んでいく

市では地域の「きずなづくり」を推進し、障がいがある人もない人も住み慣れた地域で、自分らしくいきいきと自立した生活を送ることができる「共生社会」の実現を目指しています。

そのような社会の実現のためには、市民の皆さんのお互いを思いやる気持ちが必要です。今回の特集によって、まず、障がいがある人、その関係者や家族の想いを知り、障がいについて理解し、各々何ができるか考え、行動につなげ

ていただければと思います。

また、平成28年4月1日から障がいの有無による差別のない共生社会を具体化させることを目的に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されます。

市でも一人一人の障がいに配慮した対応に率先して取り組み、法律の周知と共生社会の実現に努めていきます。

**問合せ** 障がい福祉課（☎983-2612）



### 今回の表紙

北上小学校で開催されたバリアフリー教室の様子です。

子どもたちは、障がいがある人に対してごく自然にサポートできる「心のバリアフリー」を目指し、車いす体験などへ積極的に参加しました。



～障がいがある人・ない人が当たり前と共に生きる社会を目指して～

Oba Yuki

三島市身体障害者福祉会会長 大庭雄樹さん

**身** 体障がい者自らの手で組織・運営し、会員同士の親睦と「社会参加と平等」の実現を目指し、約300人で活動しています。スポーツ活動（フライングディスクなど）、スポーツ大会・文化作品展への参加、身体障がい者の相談受け付け、福祉標語入り鉛筆の販売などを行っています。会員の高齢化や若者の入会数減少が課題となっています。

市内14小学校や自治会への、会員による鉛筆の直接販売は、子どもたちにとっては、障がいがある人を知る機会になっていると思います。現在、障がいの有無で分けられているイベントが多いですが、今後は区別なく参加でき、スポーツや芸術を楽しむ機会ができれば嬉しいです。



▲スポーツ大会でのフライングディスク競技の様子

最近、私が転んだとき、さっと助けてくれた人がいたように、徐々に障がいがある人を見る目が変わってきたと感じています。私たちが参加している小学校でのバリアフリー教室のように、子どものときから障がいについて学ぶことで、障がいのある人との付き合い方が変わると思います。今後も機会が増え、共に生きることが当たり前な社会になることを願っています。

市の取り組み

バリアフリーへの理解を深めることや、障がいがある人へ自然に支援できる心のバリアフリーを目指し、市内小学校でバリアフリー教室を実施しています。

## 想いを知る

～親亡きあとも、障がいがある子どもが安心して暮らしていける社会を目指して～

Magokorokai

まごころ会三島支部

**精** 神障がい者を家族にもつ家族の集まりで、精神障がい者を取り巻く地域社会や自立のための環境づくりを目的に三島支部では23人が活動しています。

集会、事例発表や話し合い、講座の開催や交通費・医療費の免除や割引の署名運動などのほか、年に数回のレクリエーションなどを行い気分転換や親睦を深めています。活動に参加し、自分一人では抱えきれない思いや困ったことを共有することで、心が軽くなると感じています。

現在、まごころ会の会員は80代くらいの親、50代くらいの精神障がいがある子どもが多いです。しかし、子どもは障がいがあるため、生活費のほとんどは親が負担している状態です。

そのため、親亡きあとも、子どもが安心して暮らせるような制度などが整うとともに、助成や補助によって支援の底上げがなされることを願っています。



▲レクリエーション活動の様子

また、近所でもあまり知らない人には、子どもについてのお願いをしにくい状況があります。そのため、地域の人たちにも障がいについて少しでも知ってもらうなど、理解するという面から協力してもらうことで、障がいがある人を見守っていただければと思います。

市の取り組み

いざというときに助け合えるご近所のきずなづくりを推進しています。日ごろから声を掛け合うなど、顔の見える付き合いを心がけてください。